

令和2年度花巻市まち・ひと・しごと創生有識者会議（会議録）

1 開催日時

令和3年3月25日（木） 午前10時00分～午前11時30分

2 会場

花巻市生涯学園都市会館 3階 第2・第3中ホール

3 出席者

(1) 委員出席者

高橋利光委員、高橋豊委員、浅沼幸二委員、佐々木博委員、菅原智明委員、中村良則委員、齋藤俊明委員、川村俊彦委員、漆沢俊明委員、佐藤充委員、瀬川行夫委員、松葉孝博委員、岩渕満智子委員 以上13名

(2) 委員欠席者

藤田甲之助委員、宮崎孝志委員、小野寺孝委員、菅原康之委員 以上4名

(3) 市側出席者

上田東一市長、久保田留美子総合政策部長、菅野圭地域振興部長、松田英基財務部長、菅原浩孝農林部長、志賀信浩商工観光部長、布臺一郎市民生活部長、佐々木賢二建設部次長、高橋靖健康福祉部長、市川清志生涯学習部長、清水正浩大迫総合支所長、八重樫和彦石鳥谷総合支所長、小原一美東和総合支所長、笹間利美消防長、岩間裕子教育部長、富澤秀和秘書政策課長、赤坂秀樹同課長補佐、瀬川千香子同企画調整係長、吉田真彦同主査、小田島大介同主査、菊池絵未同主査 以上21名

4 会議内容

(1) 開会

(2) 市長あいさつ

【上田市長】本日は年度末のお忙しいなか、本会議にたくさんの委員の皆様にご参集いただきましたこと、ご意見をいただけることについて感謝申し上げます。

花巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略は、10年間の花巻市まちづくり総合計画長期ビジョンと具体的な事業を掲載する中期プランと整合性をとりながら策定しているが、国の指針では、地方版総合戦略がなければ、まち・ひと・しごと創生に関する国の補助金を活用できないことから、総合戦略を定める必要がある。単に補助金を得るだけではなく、花巻の将来を考えるという意味で大変重要な計画であり、皆様にご意見をいただくのは大変ありがたいことである。

花巻の状況として、人口は大きな課題である。花巻市人口ビジョンを平成27年10月に策定しており、何も取組をしなければ、2040年の段階で約7万5千人になるという予測であるが、8万人を超えるくらいの人口とする目標を作った。現在は、9万4千人くらいの人口となっており、成行値に近い数値になっている。

自然増減については、花巻市の65歳以上の人口は3万4千人近くだが、ピークを迎えたとみており、今後は減る傾向にある。しかし、75歳以上の人口は、今後さらに増える。その結果、亡くなる方の絶対数が多くなる傾向は続く。一方、出生率については、令和2年の目標として合計特殊出生率1.58を掲げたが、なかなかうまくいかないものの、直近では1.41と大きく下がっている訳ではない。出産の多い年代の女性の絶対数が減っているため、出生数が減っている。コロナ禍の影響で今年の出生数がさらに減る可能性があり、その結果、自然減は今後も増える可能性が高いと考えられる。

社会増減に関しては、令和元年は147人の増、令和2年は速報値だが122人の増となっている。令和元年は北上市にキオクシア株式会社が進出したという特殊要因があり、三重県から花巻市に約100人が転入されている。この要因が大きく、ここ10年くらいで初めて社会増となった。令和2年は元に戻ると考えたが、三重県からの転入が10人程であったなかで、122人の社会増となっている。この社会増を定着させる努力を市としてしなければならないと考えている。キオクシア岩手株式会社は花巻市と北上市の間に位置しており、多くの方は北上市を選んでいるのも事実である。

住民基本台帳を基にした県外・県内の異動状況の資料を見ると、2013年の段階で、花巻市は沿岸被災地や遠野市から転入が多い一方で、盛岡市や紫波町、矢巾町などの県央、北上市を含めた県南との間では、数十人単位でマイナスであった。それが段々よくなっており、ここ2、3年は、沿岸や遠野市からの転入が多いだけではなく、県央や県南からも数十人単位でプラスとなっている。花巻市の場合、花巻市から出て行く人よりも、県内から花巻市に来る人の方が多くなっている。近隣の自治体と人を取り合うということではないが、花巻市の魅力を高めてこの傾向を定着させることが花巻市に来ていただく上で大変重要でないかと思う。

今後わずか20年の間に2万人が減るという予想がある。花巻市の将来、後世の人達に対して元気ある花巻を引き継いでいかなければならないと考えると、今の段階でやれることは全てやることを考えていく必要がある。

花巻市は工業の部分では北上市に到底かなわない。北上市は数十年にわたり工業団地を開発してきたが、花巻市は、機械金属工業団地は別としても、その他の第一工業団地や第二工業団地、流通団地は全て岩手県土地開発公社と都市基盤整備公団が開発してきた。トヨタ自動車株式会社やキオクシア株式会社など地方に進出が見込まれる世界的大企業が日本国内にない状況であることを考えると、花巻市が北上市や金ヶ崎町と同じように企業を誘致することは困難である。規模としては小さくなるが、企業誘致も進めながら、ベッドタウンとしての花巻の魅力を高めていく必要があると考える。

花巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略に基づく令和元年度までの取組に関する効果検証において、我々の現時点における問題意識、課題意識を出しながら、委員の皆様のご意見を伺った訳だが、今日の会議において改めて委員の皆様のご意見を伺い、良いものを作ってまいりたいと思うので、よろしく願いたい。

(3) 座長選出

事務局案という意見が委員より出され、中村良則委員を座長に選出。また、職務代理者として、中村座長より齋藤俊明委員を指名。

(4) 議事

【中村良則座長】それでは、議事を進めさせていただく。次第の4番目、「議事」の(1)第2期花巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略素案について事務局より説明をお願いする。

富澤秘書政策課長から、資料 No. 1「第2期花巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要について」、資料 No. 2「第2期花巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略素案」、資料 No. 3「花巻市まち・ひと・しごと創生有識者会議意見一覧」に基づき、第2期花巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要及び素案について説明。

【中村良則座長】ただいまの説明について、ご質問やご意見のある方は、挙手をお願いする。説明にもあったとおり、ご意見については、花巻市における地方創生の取組をより深化させるために、「基本的方向」や「重点方針の展開」、「施策の方向性」等の捉え方に不足がないか等の視点を中心をお願いしたい。

【松葉孝博委員】第2期総合戦略では、空家や優良な宅地の整備など、花巻の魅力として住むところの整備に重点的に取り組むという印象を受けたが、そのような方向性か。

【富澤秘書政策課長】それだけに特化するわけではない。人口を増やしたいところではあるが、そういう状況にない。そこで宅地など、住むところへの支援を拡充することが、人口減少の抑制になると考えているもの。これまでも取り組んできたが、今後も重点的に力を入れていきたいと考えている。

【松葉孝博委員】北上の工業団地に企業が進出し、一時的に人が増えているというだけではなく、花巻市にも魅力があるから増えているということであったが、その花巻の魅力とは何か。

魅力の向上を図るのであれば、住むところの確保というよりは、遊休不動産の活用やリノベーションなど、花巻の底力の魅力をさらに増すところに重点を置くべきと考える。

【中村良則座長】建物も大事だが、まちそのものの魅力を発見して、それをより強化していくような方向性をもっと出ればよいというご意見かと思う。

【久保田総合政策部長】総合戦略の取組は、4つの基本目標がベースであり、しごとづくり、子育て支援、安心して暮らせる環境整備など、これまでの取組も推進していくことから、委員の考え方は含まれているということで理解いただきたい。

第2期総合戦略の基本目標4には、人が集う、住み続けたいといった魅力をつくるという視点を追加した。その中の一部が、空家を解体してアパートを作る、若い世代

に安く住宅を取得してもらおうといった施策である。

地方創生は人口問題の解決を目指すものであるが、人が住み、幸せに暮らしていくことを念頭に置く必要がある。

【高橋利光委員】素案の37ページに「地域資源を最大限に活用して、地域に付加価値を持たせる」という説明があるが、付加価値の内容について教えてほしい。また、数値目標が各ページにあるが、数値目標はどのような根拠で設定されているのか。設定の仕方を教えてほしい。

【富澤秘書政策課長】目標値の設定については、多くが第3期中期プランの指標と整合させており、これまで継続してきた取組の実績を考慮して設定したものである。それで測れないものについては、例えば市民アンケートのこれまでの経緯から引用してきたものもある。

【瀬川企画調整係長】付加価値については、第2期総合戦略の基本目標4の中では、良好な宅地整備のように、移住してくる方や移住を考える方に魅力的に映る点が必要と考えたもの。住居を取得しやすい環境のほかに商店街の賑わいづくりや、リノベーションまちづくりなどを含む。

基本目標4だけではなく、基本目標1にあるような仕事の面、例えば観光や6次産業なども含まれるが、基本目標4ではそうした観点が付加価値となるものである。

【中村良則座長】付加価値を言葉で言うのは難しいと思うが、それぞれのまちの歴史や現在の活動を含めて、まちの風格、雰囲気があると思う。ほかのまちに比べて花巻は活発であったり、人に優しいまちであったりする。目先のことだけではなく、まち全体や人がもっている風格や考え方、品性が感じられるまちをつくることができれば、魅力的なまちとなる。安心安全なまちづくりが一番基本になるということで、具体的な施策があるのではないかと思う。

【高橋豊委員】防災と減災に関して、最近、地震や大雨・洪水が全国で増加しているが、一方で国の予算も緊縮財政でインフラに予算をつけないことが気になるところである。今から15、16年ほど前には、石鳥谷中学校の建設工事中に北上川が増水して洪水となり、堤防を少し高くした経緯がある。花巻は堤防が少なく、大雨・洪水の際には田に水が流れ込むこともある。

老朽化が進んでいる学校もあり、予算の関係で厳しい部分もあると思うが、学校は避難場所になることが多いため、万が一のことを想定して避難や安全対策や学校への指導に取り組んでいただきたい。

【久保田総合政策部長】石鳥谷中学校の建設時にそのような事案があったことは記憶している。石鳥谷地域において北上川の堤防の整備には、長い期間を要する。現在の取組として、北上川東側の新堀地域において、今年度、指定緊急避難場所を新堀振興センターから東部土地改良区に変更したが、そこでも狭いかもしいという話であり、八重幡小学校も候補に検討している。ただし、そこも千年に一度の規模の災害があれば候補としてどうかということを経験してきた。

新堀、八重幡地域では、そのような事案が生じた場合、バス等で安全な場所に避難させる必要があるということで、令和3年度も引き続き協議を続ける。

東和地区の小山田振興センターでも同様の問題意識があり、地域から指定緊急避難場所を変えてほしいという申し出もある。これまでは、市で策定した指定緊急避難場所等に避難してもらっていたが、地域住民と話し合いをしながら、進めていきたい。

【岩淵満智子委員】子育てについて若い人と話すと、よそから転入してきた人は、子育てに対する様々な支援があり、花巻市はいいところだという声を聞く。しかし、花巻市の施設整備は「点」(施設から施設への移動が難しい)であり、つながりが無いという意見もある。新しくできる図書館の中に子どもの遊び場のようなものがあるとよいということも聞く。

東京の人からは、広域公園も素晴らしいが、足がなく、車を使うことが前提になっているという意見があった。時期的でもよいから、有料でもよいので、バスを出してもらえると嬉しいという意見もきいた。

色々な声をきくが、住み続けたいまちのために、自分たちも行動することが大切であると感じる。高齢者も含め、何ができるかを考えで行動する必要があると感じる。

【中村良則座長】花巻は色々な施策を行っており、資源がたくさんあってほかのまちに決してひけをとらない。それをもう一歩進めて、住むまちとしての利便性を高めるというご意見かと思う。

【富澤秘書政策課長】何をどのように取り組みますとお答えできないが、まずはできることから、地域の方を巻き込みながら進められるとよいと考えている。

【中村良則座長】例えば利用者を明確にした形で循環バスや公共交通機関を活用・利用する仕組みを作るという観点があってもよいのではと思う。子育て世代や高齢者世代では違うので、各世代別に対応した施策のあり様があってもよいというご意見かと思う。

【佐藤充委員】今住んでいる方に対して人口の流出抑制を防ぐ観点を含めて、市では注視して取り組む方針と受け取った。今後花巻市に住もうとする方に、子育て支援などの情報提供が事前に伝われば、花巻市が移住先の選択肢に入ってくるようになると考えられるため、様々な施策に関する情報が外の人に伝わるよう発信することが必要と思う。

Society5.0や5Gなどの新たな視点もどのように活用できるか明確になっていないことと思うが、まず電波がないと使えない。5Gは東京でも一部でしか使用できない状態で、インフラ整備も必要であるため、今後の普及次第かと思う。専門家からのご意見や情報を、有識者会議の場で提示して議論するなどの仕組みを検討いただきたい。

【久保田総合政策部長】今年度はコロナの影響で、移住定住に関する東京等での相談会は開催できなかったため、オンラインでの相談も行ったが、こうした情報提供も一部にとどまるものである。SNSも活用した情報発信を行っているが、今後どのように情報を発信するかは考える必要がある。

当市では、今年度より民間のIT企業出身者をICT政策推進監として採用し、業務の一部についてICTを活用した効率化等に取り組んでいる。こうしたなか、ロー

カル5Gについては、市の政策への活用可能性について、若手職員を中心に勉強会を始めたところである。職員が理解していないと、活用を進める上での説明もできないので、まずは勉強したうえで、専門家を入れるなどして、Society5.0の実現を進めていく。

【瀬川行夫委員】素案の44ページに大迫高等学校の生徒確保対策事業が掲載されているが、生徒確保に関する取組に感謝する。県教育委員会では、募集定員の半分以下の入学となる状態が2年続くと募集停止にするという方針であるが、今年度は半分を割りこんだため、来年も同じことになると、募集停止になる。

おおはさま留学生の取組を2年前から始め、現在仙台から1名、北上から1名の2名が来ている。素案の44ページに記載の、令和3年度から開始する「地域みらい留学事業」は、全国に情報発信して生徒を募集するものだが、間に合うかどうか危惧している。

大迫だけの問題だけではなく、市内他地域からの入学生もおり、通学タクシー・バスにかかる費用も支援をいただいている。

市には、万が一定員要件を下回ったとしても、高校が存続するよう県に働きかけてほしい。

【清水大迫総合支所長】大迫高校の生徒確保対策については、これまでも生徒確保対策協議会が行う事業に市で支援をしてきたが、今年度は厳しい状況にあると認識している。

令和3年度は「地域みらい留学制度」を活用し、自然や伝統芸能、ぶどう産業を生かした特徴ある地域の魅力を全国に発信し、募集を進めていきたい。また、生徒確保対策協議会への支援については、一層拡充しながら大迫高校の生徒を地域で一緒に育てるということを重点に情報発信していく。

県の再編計画については、市としてはまず令和3年度の生徒確保を重点的に取り組み、並行して県への働きかけについても検討していく。

【中村良則座長】ほかにどなたかございませんか。ないようなので、議事の「(1) 第2期花巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略素案について」を終了する。

【中村良則座長】次に、議事の「(2) その他」について、委員の皆様、または事務局より何かございますか。

(事務局挙手)

【中村良則座長】それでは、事務局お願いします。

【富澤秘書政策課長】事務局より、今後の流れについてご説明する。第2期花巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略素案については、今回委員の皆様からいただいたご意見等を検討の上、市長、副市長、教育長、部長級職員で構成される「花巻市まち・ひと・しごと創生推進本部会議」において、第2期花巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略を決定する予定である。

いただいたご意見については考え方や反映状況を整理し、策定した戦略とともに後日委員の皆様宛てにお送りするので、よろしくお願ひしたい。

【中村良則座長】提案された意見については、市の内部で検討していただきたい。それでは、
以上で議事を終了する。ご協力ありがとうございました。

5 その他
特になし

6 閉会